

〈感想文〉(主に②④)

「自分の好きな道を選択する」これは今回の三菱商事や二高のOBとの懇談会などで学んだ1つであり、三菱の社員の方々や二高のOBの先輩方が口並み揃えて何度も言っていた言葉である。

まず、二高のOBの先輩方との懇談会で私は3人の先輩方の話を聞いた。1人目は東京大学の理科2類に行った先輩だ。高校時代は部活も勉強も文武一道で、見せて頂いた1日のスケジュールを見て私は驚いてしまった。また、東大に入ってからやはり勉強は難しく、大変であるとは言っていたが1日1日が充実していて楽しいとも言っていた。そして、意外にも大学は自由な時間が多いんだなと改めて思った。

2人目は一橋大学の法学部に入った先輩であった。この先輩は大学を一旦休学し、世界一周旅行に行ったと言っていた。もともと英語が得意で世界の文化や生活などに興味があるそうだ。そして、世界一周旅行をしてみても世界中の多くの国々の人々や民族の人々と仲良くなれ、自分の目で世界を見てとても良い経験をしたとも言っていた。

3人目は東京医科歯科大学歯学部先輩のお話を伺った。その先輩は東京医科歯科大学は第一希望ではなかったそうだが、今思うと入学したことに後悔はなく、逆に入って良かったと言っていた。

この3人の先輩方の目は私とはどこか違う目の輝きを持ち、自信に満ち溢れているように私には見えた。しかし、どの先輩も「自分の好きなことをやった方が良いよ。そうじゃないと、長続きしないから。」と言っていたことがとても印象的だった。確かに大学で学ぶことは職業や将来の自分に繋がるのである意味、大学選びや学部選択は人生の中で一番大切な選択であり、人生の分岐点であるのかなと思った。また、東大などの有名大学だから一番良いとかではなく、自分、一人一人に合った大学を選び、その大学で自分という花を咲かせることができれば良いのかなとも思った。

次に企業大学訪問では等潤病院を訪問した。等潤病院は慈生会という社会医療法人の中に含まれている病院であり、様々な最新の機器を整備し、専門的な治療や非侵襲的な治療など最新医療に対応している病院である。その上、退院後の自宅療養に必要なリハビリテーションをはじめ、在宅医療部門や地域包括センター、居宅介護事業地域の患者さんに、入院から在宅までの一貫した医療と介護の提供をしている。私がこの病院を訪れて、話を聞き、注目した活動が3つある。一つ目は最新の医療機器と技術だ。特に放射線科はとても凄いと思った。最新の放射線診断機器が揃っており、CT(X線を使って体の断面を撮影する検査に使用)は320列MDCTという世界最大の撮影範囲を有し、0.35秒の瞬速スキャンで1回転するだけで撮影することができる。また、短時間の撮影により、患者さんへの大幅な被爆を低減している。MRI(人間の体の水分に含まれる水素原子の原子核から放出される微弱の磁気に電磁波を当てる)は3テラスMRI装置というもので高画質の画像を得られるとともに静音機構を備えているため、より広い空間と相まって開放感をもって検査ができる。そして、機器も素晴らしいがそれよりも素晴らしいのがこの病院にいる。それはその機器を使う技師の方々である。放射線技師の方々是全国や世界でもトップクラスであり、数多くのコンテストでも優勝している。ちなみにその機器を使い画像を撮ることは写真を撮るのと同じよう下手な人が撮ると画像がブレてしまったり、キレイに撮れなかったりといくら最新の機器とはいえ、それを使いこなすことができる高い技術も必要なのだ。

2つ目は医師や看護師などとして働くためのワークライフバランスが整っていることである。実際に医師や看護師などで病院で働いてい間に子供をきちんと預かってくれる保育所があり、安心して預けることができる。また、時間単位年休制度や短時間正職員制度(子が中学就学前まで)など職員の負担軽減と仕事と子育ての両立支援の多様な取り組みをしている。

3つ目は主に高齢者のためのリハビリテーションや介護施設が整備されていることだ。私が介護施設を訪れたとき、入った瞬間に元気の良いおばあちゃんの声が聞こえて、何だろうと思ったらカラオケボックスがあり皆で歌っていて楽しそうでした。本当にここは老人ホームなのかと目を疑うぐらい。しかし、このようにカラオケボッ

クスがあったり、皆で何かをすることができる設備があるからこそ施設に入っている方々も楽しく老後を過ごすことができるのかなと思った。

他には手術服を着て実際の手術室に入り、少しだけだが手術の雰囲気を見せてもらいました。また、実際に医師だからこそ分かる医師という仕事についていくつか質問した。例えば、「医者という仕事をきて、嬉しかったことは何か」という質問に対しては「嬉しかったことは困難な病気にかかった患者さんが元気で退院して行くことなど日々、患者さんの病気が治っていったり、良くなっていったりする。」と答えていただいた。そして、「医師になる上で今の高校生に向けて、やっておくべきことや伝えたいこと」は本を多く読むことで豊かな心を持ち、自分だけではなく、色々な人の考えを知り、人間として視野を広げることだそうだ。それは医師になり、患者さんと接する上で後々繋がることだと言っていた。

私は今回、東大見学会企業大学訪問ガイダンスに参加して本当に良かったと思った。以前までは正直、自分の進みたい道というのは明確ではなかったのだが、今は自分の歩みたい道が鮮明になり、目標を持って頑張ろうという気持ちになった。それだけではない。自分の心の中にあった限界という言葉が消え、今までの私の殻を破けた。これから、今回学んだことや経験を生かし、真の二高生としての自覚を持ちながらも、二高という場所で「私」という花を咲かせていきたいと思う。

きっと、これからの人生において失敗することの方が成功することより多いと思うが、その失敗を積み重ねてこそその成功は本当に嬉しいし、達成感ももの凄いのではないかと想像している。いつか、その想像を現実に変えたい。